

山口県立

# 総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特  
集

## すまいるフェスタ

医療の現場をもっと身近に! その魅力を体験



2025.6 Vol.60

- ① 福迫副院長挨拶 ② 人間ドック ③ ④ 特集 すまいるフェスタ ⑤ 看護部通信 ~安心・信頼される外来を目指して行っている誤認防止のための取り組み~ ⑥ 地域医療連携ニュース 「すまいるフェスタ」に患者支援連携センター・がん相談支援センターが参加しました。 ⑦ インフォメーション 広報番組放送予定、県民公開講座予定、編集後記

外来診察担当医表(別紙)



## 病院機能評価の （一般病院2 3rdG:Ver.3.0） 審査を受けて

副院長/脳神経内科診療部長  
福迫 俊弘

私たちは2025年3月に（公財）日本医療機能評価機構による病院機能評価の審査を受けました。病院機能評価の目的は「患者の視点に立った、良質な医療の実践」です。審査では、安全管理、診療体制、患者中心の医療、組織運営の適正性など、さまざまな観点から総合的に評価されます。今回の受審を通じて、工夫することでより高い水準に改善できる項目や他病院の状況、事例を踏まえた病院機能評価でのポイントについてご紹介いたします。少しでも皆さまのお役に立ちますと幸いです。

### 1. 個人情報の保護

- 診療情報の外部持ち出しに関する規定を明確化する。
- USB等を使用する場合は、病院が管理するもので、セキュリティロックを施した上で使用する。

### 2. 薬剤管理

- 病棟で使用する麻薬および向精神薬の鍵は、管理体制をより厳格化する。
- スペアキーは一括管理し、適正な運用を行う。

### 3. 医療機器の適切な使用

- 単回使用医療機器（SUD）は、いかなる方法で滅菌しても再使用しない。

### 4. 衛生管理の向上

- 浴室のマットは使い捨てタイプを使用することが望ましい。
- 病室、廊下、処置室、スタッフステーション等では、清潔・不潔の区別を可視化し、整理整頓を習慣化する。

### 5. 施設の安全対策

- 戸棚や本棚は固定し、その上に荷物を積まないようにする。

### 6. 災害時の備え

- 患者さんおよび職員が利用する3日分程度の医薬品、飲料水、食料品を備蓄する。

### 7. 意見の収集と改善への活用

- 定期的に収集した患者さんの意見は、病院運営の改善の参考とする。

いかがですか？ 実践できていますか？ その他にも様々な項目があり、病院機能評価の基準を満たすためには、多くの手間と経費がかかることもあります。しかし、単なる認定取得のためだけではなく、医療機関が一定の水準を保ち、継続的に質を改善するための重要な指標です。また、多職種のスタッフと普段話せないことまで腹を割って話すいい機会となり、病院の質向上にもつながります。

～健康状態を知り、素敵な毎日を過ごしませんか～

## 人間ドックのご案内

当院には多数の診療科があり、高度な機器を用いた詳しい検査や専門医による診断を行っており、予防医療の1つとして人間ドックを実施しています。

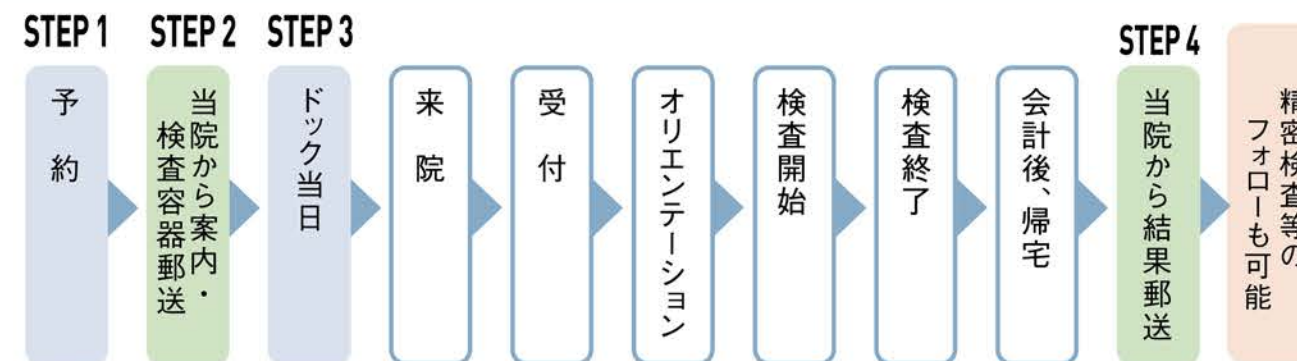
人間ドックは、法律で義務付けられている健康診断と異なり、任意で受けることができます。より詳しい検査で体の状態を詳細に把握することが可能なため、生活習慣病の発症予防やがんなどの早期発見につながります。

### <当院の特徴>

- ◆ 脳ドックやがん検査に加えPET/CT、心臓超音波（心エコー）検査などオプション検査が豊富
- ◆ 胃内視鏡検査（経口・経鼻）を選択した場合でも、追加料金なし
- ◆ オプションで待機室の個室を選択可能（1日2名）
- ◆ 精密検査が必要な場合、検査結果をもとに当院でフォローが可能



### <受診の流れ>



### <人間ドックのコース> ※受診人数は各日7名まで

完全予約制

種類	月曜	火曜	水曜	水曜	金曜	料金(税込)
1日ドック	○	—	—	○	○	43,340円
2日通院ドック	—	○	—	—	—	52,723円
2日宿泊ドック	—	○	—	—	—	60,423円

検査の種類や料金等、詳細は当院ホームページをご覧ください。受診を希望される方は、ぜひお申し込みください。



待機室（総室 / 基本）



待機室（個室 / オプション）

お申し込み・お問い合わせ先

医事課 人間ドック担当

**0835-22-4411**

（平日8時30分～17時15分）



ホームページQR

# すまいるフェスタ

医療の現場をもっと身近に！その魅力を体験

当院では、地域の皆様との交流を深め、医療現場について広く知っていただくため、看護週間にあわせて山口県看護協会と共催で「すまいるフェスタ with かんごちゃん」と学ぼう看護週間を開催しました。多職種の医療スタッフが協力し、病院の役割や仕事の魅力を発信しました。

病院と聞くと「治療や健診を受ける場所」というイメージが一般的ですが、今回はその舞台裏の見学や、医療機器を実際に操作することで、医師や看護師だけでなく、その他多くの職種にスポットを当て、参加者がより身近に医療を感じる機会となりました。イベントは、実行委員長である武藤院長の開会挨拶を皮切りに、各ブースがオープンしました。

## 医療のお仕事体験ブース(エコー検査)



ここでは、エコー検査、シミュレータを用いた診療体験、薬剤師やリハビリなど、医療スタッフの説明を聞きながら、実際に操作に挑戦。「細かい操作が必要で難しい」「色んな動きをして面白い」と、楽しみながら医療技術への理解を深めました。

## 内視鏡手術



## 看護協会共催イベント

看護師による健康測定をはじめ、人形を用いたフィジカルアセスメント体験や妊婦ジャケットを着て日常動作を実践する妊婦体験などで理解を深めることができました。看護技術の重要性や、妊婦への配慮の必要性を改めて認識しました。

## ユニフォーム着用体験



子どもたちに人気のユニフォーム着用体験を実施。白衣やナース服、手術衣を実際に着用し、医療の仕事を実感しました。聴診器も使いつつ、「お医者さんになった気分！」とワクワクした様子で写真撮影を楽しむ姿が印象的で、病院スタッフとの交流も自然と生まれました。

## ダビンチ見学ツアー & 病院見学ツアー



予約制でダビンチ(手術支援ロボット)見学ツアーと病院見学ツアーも開催しました。ダビンチ見学では、手術室でロボット手術認定医によるデモンストレーションを見学し、参加者が実際に体験。「医療技術の進歩に驚いた！」と声が聞かれました。

病院見学ツアーでは、リニアック室(放射線治療室)、手術室、県内唯一の第一種感染症の受け入れが可能な感染症センターを順番に見学し、医療スタッフの仕事やそれぞれの役割について学びました。普段は見学できない設備の説明を聞いたり、新型コロナウイルス感染症流行時の対応の流れを確認したりする中で、「この機器はどんな時に使うの？」など多くの質問が寄せられ、関心の高さが伺えました。

## 病気を知る機会



## 【糖尿病 その他ブース】

例えば、血糖測定などを体験することで、糖尿病に関する正しい知識を広め、クイズや輪投げなどゲームを通じて、かんごちゃんについて知ってもらうことができました。

## オンライン診療



## 医療 MaaS 車両側



## 診療室側

オンライン診療の流れを実際に体験し、医師との遠隔コミュニケーションの特性を学ぶとともに、\*医療 MaaS 車両に乗り、巡回診療の設備や機能について理解を深め、これからの医療について考える機会となりました。

\*情報通信技術や移動型診療車両を活用し、遠隔診療や訪問診療を提供するサービス

## 餅まき



島田県議会議員と池田防府市長にご来院いただきました。

## すまいるフェスタを通じて

### 武藤院長

山口県立総合医療センターとしては初めての開催となる「すまいるフェスタ」を、看護週間初日の令和7年5月11日に、当院敷地内で開催。天候への不安はありましたが、子供から大人まで約1,000名の来場者があり、無事に終わることができ安堵しています。命を守る手術支援ロボットなど最新の医療機器の紹介・体験コーナー、白衣を着て薬剤師に扮して薬剤の調合をする場面などが非常に新鮮でした。今回のような医療現場での疑似体験をとおして医療の仕事を理解してもらい、将来、県内で医療人として貢献していただける人がたくさん出てくることを切に願っています。

最後になりましたが、本イベント開催に奮闘・ご協力いただきました多くの関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

### 田島看護部長

「看護週間」は、ナイチンゲールの生誕を記念して、看護の心と看護の魅力を伝える期間とされています。看護体験をはじめ、様々な体験ブースでは、医療従事者になった気分での医療機器に触れたり、ステージでは院内保育園児の発表やコンサートに癒されたりと、普段は見られない、触れられない体験をしていただくことで、健康と医療、そして当院で働く私たちが身近に感じていただけたのではないかと思います。

ご支援いただきました山口県看護協会様をはじめ、すまいるフェスタの開催にあたり、ご協力いただいたすべての皆さま、準備から当日の運営まで頑張ってくださいましたスタッフの皆さまに心より感謝申し上げます。

### 嶋村事務部長

当院職員による手作りのイベントとして、初めて「すまいるフェスタ」を開催いたしました。日頃、患者さんや院内業務への対応に追われ、イベントの準備に携わったことがない職員がほとんどだったかと思います。当院のことを地域の方に知ってほしいという気持ちを前面に、入念に準備を進めてまいりました。

やや天候を気にしつつ当日を迎えましたが、終わってみれば、前出しのような大変な賑わいとなりました。

おかげさまで、多くの来場の皆さまから高評価を得ることができ、準備での苦労が報われるとともに、地域とともにある医療機関として魅力向上に繋がる一日だったかと思います。

Nursing Department  
Communication

## 看護部 通信



## 安心・信頼される外来を目指して行っている 誤認防止のための取り組み

外来師長 久坂 美也子

当院では患者さんの安全を守るために、誤認防止として2項目以上の患者確認を行っています。入院中は、患者さんに氏名と生年月日が記載されたリストバンドを装着してもらいます。そして、検査、注射の都度、患者さんが装着しているリストバンドの記載情報を見ながら、ご本人に氏名を名乗ってもらうことで患者確認を行っています。

その一方で、外来の患者さんはバンドを装着していないため、より慎重な確認が必要となります。一日平均840人、年間約204,000人の患者さんが受診されていますが、その多くは、他施設からの紹介や、当院での専門医療や特殊検査、治療を必要とされ来院されます。患者さんに、安全で安心、信頼される医療を提供するためには誤認防止がキーとなります。

外来には初めて受診される方も多く、コミュニケーションツールも一人ひとり違います。一人で来院されている患者さん、家族や施設の方が付き添われている患者さん、ストレッチャーや車いすをご利用の患者さんなど、背景もさまざまです。

私たち看護師は、それらの点を踏まえ、患者さんの状況に応じた適切な確認方法を実施し、誤認防止に努めています。例えば、診察室に入る前には、呼び出し番号と氏名を名乗ってもらっています。同姓同名の患者さんがいることを考慮して、生年月日を言うていただくこともあります。また、患者さんご自身で氏名を伝えることが難しい場合は、家族や施設の方が代わりに伝えていただくことで、誤認防止に取り組んでいます。この取り組みは、看護師だけでなく、医師や事務など全職種で務めています。

誤認防止に取り組むことで、私たちの外来でスローガンにしている「患者一人ひとりへ適切な時期に安全で安心・信頼される医療と看護を提供する」に繋がっています。

## 地域医療連携 NEWS ニュース

### 5/11(日)に開催された「すまいるフェスタ」に患者支援連携センター・がん相談支援センターが参加しました。



クイズ・輪投げ・発作映像等の紹介

### 【てんかんサポートチーム】

当院は山口県から「てんかん支援拠点病院」に指定されており、専門的なてんかん診療・検査・手術や、てんかん相談窓口を開設し、てんかんセンターのチームで対応しています。

てんかんは人口の約1%を占める身近な病気ですが、まだ広く知られていない病気といえます。フェスタではてんかんを広く知り、理解いただくことをコンセプトとし、てんかんに関するクイズや輪投げ等のゲーム、専門医による相談窓口等のブースを開設しました。

当日はお子さんをはじめ、様々な年代の方々(111名)がクイズや輪投げに参加されました。参加者からは「てんかんのことがよく分かりました。」「運転の制限など知らないことが多かったです。」等の声をいただき、てんかんに関する情報や当院の役割等を発信できたと感じております。今後とも、当てんかんセンターに対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



輪投げ参加者にパープルデー缶バッジを配布

### 【がん相談支援センター】

当院は山口・防府保健医療圏の「地域がん診療連携拠点病院」です。がんと診断された患者さんやご家族の不安な気持ちや治療に伴う悩みに対して寄り添い、一緒に考えるために「がん相談支援センター」が設置されており、院外の方の相談も、平日に無料・予約なしで受付しています。

今回のすまいるフェスタでは、「相談・心理検査ブース」でがん相談支援センターをより多くの方に知ってもらうためにリーフレットなどを配布し紹介しました。県や防府市の補助金制度のあるアピアランスケア(ウィッグや補正下着)の展示や試着もおこないました。当日は、がん患者サロンレモンガラスのぴあサポーターの方々と一緒に広報することができました。「こういう窓口があることを知らなかったのを知れてよかった。」という感想をいただき、今後も様々な方に知っていただけるように活動していきたいと思ひます。



医療用ウィッグやケア帽子等の展示や試着



リーフレットやがん冊子などを配布



## インフォメーション



### やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)

放送日時	放送内容	出演
8月2日(土) 18:55~19:00	受けよう消化器がん検診	消化器内科 岡本 健志 医師
8月6日(水) 16:00頃~		

### 令和7年度 県民公開講座 開催予定

開催日時	テーマ	講師	開催方法
8月16日(土) 14:00~15:00	直腸癌治療の最前線 ~da Vinci手術で描く未来~ (ダビンチ)	外科 原田 栄二郎 医師	当院2階 大会議室
10月25日(土) 14:00~15:00	てんかん	脳神経外科 藤井 正美 医師	救急棟2階 講義室
11月29日(土) 14:00~15:00	乳がん治療	外科(乳腺外科) 上田 晃志郎 医師	オンライン
1月24日(土) 14:00~15:00	カテーテル治療	循環器内科 上山 剛 医師	

#### お知らせ

今年度の県民公開講座は、「会場参加型とweb参加型のハイブリッド式」または「オンライン」での開催を予定しています。  
日程により開催方法が異なりますのでお気を付けください。  
※実際の講演時には、テーマに沿った演題に変更予定です。

受講料  
無料

#### 編集後記

す まいるフェスタでは、日々の業務の中ではなかなか伝えきれない「山口県立総合医療センター」を多くの方に知っていただくことができました。その中でも、見学や体験ブースでは、訪れた方々が病院の仕事に興味を持ち、熱心に質問される姿が印象的でした。また、担当スタッフの対応する姿は、真剣の中にも和やかな表情で、いつもの業務で見せる顔とは異なる一面を垣間見ることもできました。私たち自身もこの仕事の意義を再認識することができたことも大きな成果だったように思います。

これからも患者さんの安心を支え、地域に貢献できる病院として努力を続けてまいります。(総務課Y.N)

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する



山口県立総合医療センター

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地  
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210  
URL <https://www.ymgph.jp/>